

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	環日本海諸国語 I (ロシア語)	
科目基礎情報							
科目番号	0231			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	『初級ロシア語20課』、及びプリント						
担当教員	山本 有希						
到達目標							
1)学習したロシア語表現を用いて、自分のことを説明できるようになる 2)ロシア語の文章を音読、暗唱できるようになる 3)学習したロシア語表現を用いた質問に対して、ロシア語で答えることができるようになる 4)ロシア語の授業を通じてロシアの文化や社会に親しむことができるようになる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、8割以上正しく答えられる。			主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、6割以上正しく答えられる。		主として名詞の性別、動詞現在人称変化について、正答率が6割に達しない。	
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現及と発表がスムーズにできる。			上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現及びその発表が満足にできない。	
評価項目3	実施される単語テストにおいて正答率が8割を超える。			実施される単語テストにおいて正答率が6割を超える。		実施される単語テストにおいて正答率が6割に達しない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	【学習目標】 ロシア語初級文法・会話の学習を通じて、ロシアという国の社会や文化に親しむ。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義および演習						
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画、評価方法及び評価項目は変更することがある						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)オリエンテーション 2)第1課		1)授業に関する説明を行う 2)あいさつ表現、文字と音		
		2週	第1課		1)「この人は誰ですか」 2)アクセントと母音の弱化①		
		3週	第2課		1)「あなたは医者ですか」 2)母音の弱化②		
		4週	第2課		同上		
		5週	第3課		1)「郵便局はどこですか」 2)母音の無声化		
		6週	第3課		動詞第1変化		
		7週	第4課		1)「これは誰の写真ですか」 2)母音の有声化 3)名詞の複数形		
		8週	中間試験		既習事項の確認を行う		
	2ndQ	9週	1)試験返却 2)第4課		1)試験返却と解説 2)名詞の複数形		
		10週	第4課		1)指示代名詞 2)名詞の性数変化まとめ		
		11週	第5課		1)「どこにお勤めですか」 2)格変化の概念		
		12週	第5課		1)場所を示す前置格 2)ロシア人の名前と父称		
		13週	第6課		1)「彼はロシア語を話します」 2)動詞第2変化		
		14週	第6課		1)形容詞の性数変化 2)СЯ動詞		
		15週	期末試験		既習事項の確認を行う		
		16週	成績確認		1)成績評価・確認を行う 2)夏休みの課題の確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。		3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。		3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。		3	

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0